



上：女性二人で制作されるデザインは、繊細さとモダンさが融合しています。身に付けるアートとして、さり気ない個性を発揮してくれるのが金工ジュエリーの魅力です。ピンとブローチ、どちらもシンプルな服のアクセントに。下左：喜舎場さんが手がける房指輪は七つの飾りに立体感がある

のが特徴。琉球王朝時代、士族の女性が身に付けていたといわれる房指輪を手本に。下右：韓国にはノリゲと呼ばれる伝統的なアクセサリーがあり、その飾り部分のモチーフによく使われるのが針入れなどの手芸用品。このペンダントは、その針入れからインスピレーションを得たそうです。

指輪にもブレスレットにもなるアイデアのある作品。使い方が変われば与える印象も異なるから、イメージの違う別々のアイテムとして使いこなせるのが嬉しい。こうした細工は高度な技術力があればこそできること。

